



茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所

茨木市元町4-3

072(622)2346

[https://www.](https://www.ibarakijinja.or.jp/)[ibarakijinja.or.jp/](https://www.ibarakijinja.or.jp/)

昭和4年 遷御の儀

「遷御の儀」

上掲の絵は、昭和四年（一九二九年）に御本殿の屋根を檜皮から銅板へ葺き替えた折、葺替完了後に斎行された「遷御（正遷宮）」の様子を描いたものです。この時、工事の間、三柱の大神様（御神体）は旧社務所（現儀式殿場所）にてお祀りされていました。

境内の明かりが全て消され、楽人が奏でる雅楽の音が厳かに響き、かがり火がほのかにゆらめく中、仮殿からお出ましになられた三柱の大神様は、周囲を「絹垣」という白布で囲まれた中、輿にお乗りになり、新しくなった銅板屋根が輝く本殿へと進まれました。その列には楽人の他、宮司を始め神職や威儀物を奉持する随員、総代等が付き従っています。

現在、令和の大造営が進められており、来年秋には竣工なった御本殿に大神様にお戻りいただく「遷御」の儀が斎行されます。上掲の昭和四年の「遷御」から実に九十三年が経ちます。

この度の造営では、幣殿・拝殿は新たに造り替えるも、大神様がお鎮まりになる本殿は、四百年前の創建以来の姿であり、先人達がその時々修復を行いながら、今日へと受け伝えてこられた「心」と「形」を大切に次代へ受け渡したいと思います。

新型コロナウイルスの 当社での対応

●令和三年正月の様子

・初詣

新型コロナウイルス感染症拡大が心配されている中、当社では分散参拝の呼びかけ・本殿前に混雑緩和のため参拝者の列を蛇行させる対策を実施しました。また各授与所に飛沫防止シートを設置し、各所に消毒液の設置やマスク未着用者には無料配布などを行いました。



仮殿前の蛇行通路

・十日戎

今年の十日戎は、分散参拝を励

行するため、期間を例年の三日間から一月八日〜十二日の五日間に延長するとともに、終了時間も通常より早めて斎行いたしました。また恵美須神社前には混雑緩和のための蛇行通路を設置しました。



恵美須神社前の蛇行通路

●その他の対応

・手水舎は接触感染防止のため、柄杓を撤去し、流水で直接手を清めていただけるようにいたしております。さらに各社殿の鈴を撤去しております。

・仮拝殿前や休憩所など境内各所にアルコール消毒液を設置するとともに、授与所には飛沫防止のためビニールシートを設置しており

ます。また職員はマスク着用にて対応させていただきます。

●今後の神事について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら以下のように祭事を変更させていただきます。

◇大祓・輪くぐり神事

例年六月三十日午後二時から斎行しております「大祓・輪くぐり神事」並びに「人形祓神事」は、早朝に神職のみで斎行し、「茅の輪」はその後、翌七月一日正午まで仮殿前に設置いたします。どうぞご自由にご参拝下さい。

◇夏祭

七月十三日・十四日斎行の「夏祭」は仮殿にて神事のみを斎行し、例年の神輿・太鼓の氏子地域への巡幸・巡行は中止させていただきます。



御本殿創建四百年記念 「令和の大造営」について

●工事の進捗状況

現在、御本殿創建四百年目となる令和四年の佳節に向けて、昨年六月より「令和の大造営」の工事が進められています。

昨年十一月十七日に本殿地鎮祭斎行後、工事が本格的に開始されました。まず測量の結果、基壇上の西側（向かって左）が東に対して二センチメートル沈んでいることが解り、約十日間特殊な杭を七十二ヶ所に埋め込み地盤を強化する工事が行われました。

次に、それまでの盛土だけからコンクリートで固める作業が行われました。なお御本殿の礎石は、コンクリートに囲まれて元の場所に据え置かれました。

その後、基壇周囲の石垣が石工によって積み上げられ、いよいよ七月上旬頃から素屋根が組み上げられて本格的に社殿の建設が始まります。

造営工事の間、ご参拝・ご祈禱等は仮殿にて通常通り斎行いたします。ご参拝の皆様には何

かのご不便をお掛けいたしますが、ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



基礎工事及び石垣設置

●設計者・施工会社

今回の御造営の設計監理をお願いしたのは藤本春樹氏です。藤本氏は、平安神宮社殿や延暦寺東塔など数多くの社寺建築の設計監理を担ってきた一般財団法人建築研究協会に所属して活動してこられました。独立されてからは、藤本設計事務所を開設され、活動されておられます。これまで数多くの社寺の設計に携われ、大阪に於いても十指に及ぶ神社の設計に関わってこられました。

藤本氏は、先人達が御社殿に込めてきた氏神様に対する厚い崇敬の心を大切にした設計を心がけてこられました。そしてこれから百年・二百年氏子の皆様の心の拠り所となる御社殿を完成に導くために監理業務に専念していただいております。

次に施工は京都の株式会社奥谷組にお願いしています。奥谷組は、明治六年に三重県上野市にて宮大工を創業したことに始まります。現在は本社を京都市南区に置き、多くの社寺建築・古建築に携わってこられました。

奥谷組はこれまで、神社では伊勢神宮（内宮）授与所、平安神宮儀式殿そして廣田神社本殿など数多くの社寺の建設や修復を手掛けられ、最近では国宝知恩院三門の修復にも携わっておられます。

・奥谷組作業場見学

三月二十六日、準備が進められている奥谷組を訪問し、工場での準備状況を見学して参りました。道路を挟んで二方所ある大きな工場のほとんどを使って、造営のための木材を保管・加工しておられ

ました。これらの木材は一本一本設計者の藤本氏による検査を受けたものです。



奥谷組の工場内

解体された本殿の木材は一本ずつ丁寧に解体され、本工場へ運ばれています。工場では職人たちによつて木材が検査され、経年劣化によつて腐っている部分を削り、新しい木材を加える作業をされておられました。出来るだけ解体前の木材をそのまま用いたいとのことです。

幣殿の天井は、独特の曲線の破風天井で、とても味があり新幣殿においても再利用することです。



新拝殿の建築用材

「設計者の造営に対する篤い気持ち」が特に表現されるのが、彫刻部分。設計者の想いをそのまま細部にわたるまで正確に表現するのが我々の使命です。」とおっしゃっていました。

奥谷組は、多くの木材を常時備蓄しておられるのが特徴です。そのため、常に国産をはじめ海外にも目を向けられ、良い木材の確保に尽力されておられます。本造営も国産のヒノキを中心に外国産のヒバも用いながら行われています。この十数年、良質の木材を確保することが以前に比べ難しくなってきたりとも話されています。



旧本殿の建築用材

「木」の大切さを痛感すると共に、自然の恵みである森林を将来に繋いでいくことの重要性をおっしゃっておられました。そして、氏子



建築用材の加工風景

●上棟祭について
木工による建前が完了する最後に棟木を据える時に木々を司る神々をお招きし、いつまでも家屋が無事であるように願う神事。建築工事のうち、柱、棟、梁など基本部分の構造が完成して棟木を上げる段階で斎行されます。
上棟祭の特徴的な儀礼として、棟木を関係者によって棟に曳き上げる「曳綱の儀」、続いて棟梁の



旧幣殿の破風天井の用材

・崇敬者の方々の浄財を用いているので、施工者としても大切に造営を進めていきたいとおっしゃっていました。

掛け声に合わせて棟木が棟に打ち付けられる「槌打の儀」が行われます。
七月上旬から素屋根が組まれ、木工工事が始まるため、工事の進捗状況によって斎行日時は未定ですが、今秋を想定しています。その様子は次号の社報で報告させていただきます。

●ご奉賛への御礼

令和元年十月より、氏子・崇敬者の皆様に御本殿創建四百年記念事業「令和の大造営」へのご奉賛をお願い申し上げたところ、数多くの方々から御篤志を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。
今後とも、事業完遂のため格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●記念事業委員会報告

平成二十九年三月の御本殿創建四百年記念事業委員会の発足時から委員長として、御造営にご尽力賜りました堀茂夫様のご逝去されたことにより、新委員長として、澤田義友様が就任されました。

帰幽報告

永年総代として、また奉賛会長並びに御本殿創建四百年記念事業委員会委員長として、神社護持のために何かとご尽力賜りました堀茂夫様が去る令和三年一月にご逝去されました。
ここに永年にわたるご功績に衷心より感謝し、御霊の御平安をお祈り申し上げます。

これからの行事予定

◆夏祭（神事のみ斎行）

七月十四日

◆末社琴平神社例祭

九月十日

◆例大祭（秋祭）

十月十日 午前十時斎行

◆七五三詣

十一月中随時

祈禱者にお守り

おみやげ授与

◆末社恵美須神社例祭

十一月二十日

◆天石門別神社記念祭

十一月二十二日

◆大祓・除夜祭

十二月三十一日